

『キリストこそ、私たちの平和』 (要旨)

聖書箇所：エペソ 2:14-16

【1】 隔ての壁

キリストの平和は、敵対し合う「二つのもの」(14)を「一つにする」と言います。ここで直接言及されている「二つのもの」(14)とは、ユダヤ人と異邦人のことです。当時のエルサレム神殿には、外側にある異邦人の庭と内側のユダヤ人の庭があり、壁がその間を仕切っていました。異邦人はその壁を越えてユダヤ人の庭に入ることが許されませんでしたし、ユダヤ人は「様々な規定から成る戒めの律法」(15)を根拠に、異邦人と同じ場所で礼拝することをしませんでした。その「壁」はお互いの敵意を可視化させました。通常、敵対する「二つのもの」が一つであろうとするためには、凄まじい努力と絶え間ない忍耐が必要であり、そうした努力によって辛うじて一致が保たれると考えます。エルサレム神殿の壁も、本来相入れない「二つのもの」が、さまざまな事情で一つの空間に同居するために必要でした。

【2】 新しい一人の人

パウロは、異邦人がユダヤ人になることや、ユダヤ人が異邦人になることで「一つ」となる道を模索するよう勧めたのではありませんでした。彼はユダヤ人でも異邦人でもなく「新しい一人の人」という言葉を用いて、従来の発想から脱却するよう促しました。

この「新しい一人の人」が意味することは、これまでの延長線上にある「平和の実現」ではありません。「新しい一人の人」によって実現する「新しい」種類の「平和」だということです。この新しい種類の平和は、従来の平和とどのように異なるのでしょうか。

【3】 人との和解、神との和解

パウロが隔ての壁を打ち壊して一つにすると言う時に、当然想定していたことは、ユダヤ人と異邦人の間にある「壁」が打ち壊されることでした。しかし彼はもう一つの側面についても語りました「…十字架によって神と和解させ」(2:16)。

パウロは、ユダヤ人と異邦人の和解、そして両

者の神との和解という二つの側面を同時に語りました。人と人が和解するためには、神と人が和解することが必要だと言うのです。神と人の「垂直方面での和解が、(人と人の) 水平方向での和解をもたらす¹」からです。ではその「垂直方面での和解」とはどのようにして実現したのでしょうか。

【4】 キリストの平和

パウロは、「(キリストは)ご自分の肉において」(14)、敵意の壁を打ち壊したのだと言いました。「肉において」とは、すなわち十字架にいのちを投げ出すことによって、という意味です。主イエスの十字架の場面について、福音書記者マタイは次のように記します。

「しかし、イエスは再び大声で叫んで霊を渡された。すると見よ、神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けた。」(マタイ27:50-51a)

この「神殿の幕」は「至聖所」(聖の聖なる場所)の前に設けられた垂れ幕でした。人はこの垂れ幕を越えて、至聖所に近づくことが許されませんでした。この垂れ幕は、罪ある人間と神との間にある隔てを可視化させていました。しかし、キリストが十字架で死なれた時、その幕は上から下に向かって裂けました。それが意味することは、キリストが十字架によって神と人を隔てる壁を打ち壊し、和解の道を開いてくださったということです(参照:エペソ2:16)。

キリストの平和は、神と人、人と人との間を仕切る壁(あるいは幕)が、主イエスの十字架によって打ち壊されたことでもたらされました。

「新しい一人の人」とは、そのキリストの平和に生きる人のことです。すなわち、人間の努力では乗り越えることのできない「隔て」が存在していることを認め、主イエスがご自分の肉において隔ての壁を打ち壊して下さったことを信じ、聖霊によって新しく生まれたキリスト者のことをさしているのです。(参照:エペソ4:22-24)



¹ 内田和彦『和解の福音をともに生きる』いのちのことば社、2001年